

「東南アジア青年の船」事業

Ship for Southeast Asian Youth Program

「東南アジア青年の船」事業は、昭和49年のインドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール及びタイ各国と日本との首脳会談における共同声明に基づき、ASEAN諸国と我が国による青年国際交流の共同事業として始められたものです。昭和60年度からブルネイ、平成8年度からはベトナム、平成10年度からラオス及びミャンマー、平成12年度からカンボジアを加え、これらASEAN諸国の協力の下、日本政府が実施しています。（日程及び写真は全て平成23年度事業のものです）

■参加国

ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア王国、インドネシア共和国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、ミャンマー連邦共和国、フィリピン共和国、シンガポール共和国、タイ王国、ベトナム社会主義共和国及び日本

■日程

月日	主なプログラム
国内活動	
10月26日（水）	参集式（東京）
10月26日（水）～11月3日（木）	日本国内活動（地方プログラム、日本・ASEANユースリーダーズサミット、課題別視察）
運航	
11月4日（金）	出航（横浜）
11月10日（木）～13日（日）	マニラ（フィリピン）
11月16日（水）～19日（土）	ムアラ（ブルネイ）
11月22日（火）～25日（金）	ジャカルタ（インドネシア）
11月28日（月）～12月1日（木）	ポートクラン（マレーシア）
11月29日（火）～30日（水）	カンボジア（プノンペン）代表団のみ
12月4日（日）～7日（水）	ホーチミン（ベトナム）
12月15日（木）	東京（日本）

■寄港地活動

視察・訪問



カンボジアのフン・セン首相を表敬訪問する



スリン・ピスワンASEAN事務総長とギフト交換をする佐藤正昭管理官（インドネシア）

課題別視察

フィリピン大学にて、リーダーシップについての講義を受ける（青少年のリーダーシップ育成グループ）

文化交流プログラム



地元青年による歓迎（ベトナム）

ホームステイ



ホストブラザーと伝統的なゲームをする（マレーシア）

■船内活動

ディスカッション



ファシリテーターの指導の下、アイデンティティについて意見交換をする各国青年（異文化理解促進グループ）

ナショナル・プレゼンテーション



自国の青少年の状況について解説するシンガポールのナショナル・リーダー

ソリダリティー・グループ活動



SG活動の綱引きを通じ、チームワークを高める



小グループで熱心に討論する（国際関係グループ）



ワークショップで模造紙を使ってアイデアをまとめる（保健教育グループ）

クラブ活動



外国参加青年に書道の指導をする日本参加青年

出港式



出港式でホストファミリーとの別れを惜しむ参加青年

平成23年度「東南アジア青年の船」事業（第38回） 参加青年 水野 麗沙

53日間の「東南アジア青年の船」事業での活動を通じて、私は自分自身の将来についてのビジョンを持つことができました。一番影響を受けたのは、各寄港地でのホームステイでした。参加青年のホームステイでの経験は非常に多様でしたが、特に「東南アジア青年の船」事業の歴史と、文化の壁を越えた家族の温かさを感じることができました。事業の歴史を非常に感じたのは、フィリピンでのホームステイでした。私を受け入れてくれた家庭は、事業開始当時から船が寄港する度に一度も欠かすことなく参加青年の受入れを行い、12年前にホストファミリー代表としてにっぽん丸に乗船したことのあるご夫婦とのお子さん、お孫さんでした。ご家族と一緒に今まで受け入れた青年たちの写真を眺めながら、38年間欠かすことなく受入れを行ってきた理由を尋ねると、「参加青年を受け入れることは自分にとって人生の生き甲斐になっている」と答えてくれたお父さんの笑顔がとても印象的でした。

一方、マレーシアでのホームステイでは、初めて参加青年の受け入れを行ってくれたご家庭に滞在しましたが、日本の文化に非常に興味を

持っているご夫婦で、子供たちと一緒にお互いの言葉や文化を教え合いながら、短いながらも非常に濃い時間を過ごすことができました。文化や国籍、言葉が違っていても、ホームステイをさせていただいたご家族にはいつも愛が満ちあふれていて、日本を離れていても「本当の家族」を感じさせてくれる素晴らしい時間を共に過ごすことができました。

私は「東南アジア青年の船」事業でのホームステイをきっかけに、今まで意識して考えてこなかった「家族」に対する自分の将来の理想をはっきりと持つことができました。各寄港地で温かく受け入れていただいたご家族のことを心に刻んで、私も将来「本当の家族」を感じられるような温かい家庭で、参加青年の受入れを行いたいと思っています。



マレーシアでのホームステイファミリーと共に（筆者右から5人目）